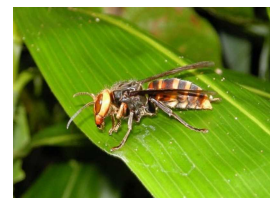


## 安全な対応

### 1. オオスズメバチ

遊歩道に注意看板が出ています。そろそろ巣作りを開始する時期です。越冬した昨秋生まれの女王バチが1匹で巣を作り始めます。これはアシナガバチでも同じです。種によって作る場所が異なり、オオスズメバチとクロスズメバチは地下です。六角柱が並んだ巣板を古い樹皮や材の繊維を噛み取って唾液を混ぜて薄く伸ばして作ります。紙と同じ作りですので水には弱く、直接雨のあたらない地下を選んだのでしょう。最初の働きバチが羽化するまでは、巣作り、餌取り、保育と全て女王バチの仕事です。

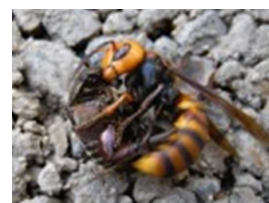


オオスズメバチ

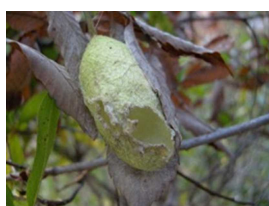


捕食後の毛虫

5月に大きな女王バチが飛び交っていても人が手を出さなければ攻撃はしてきません。忙しいのです。昆虫やクモなどを襲い、肉の部分だけをかじり取って肉団子にして幼虫に与えます。獲物を探すために、時々葉の上に止まって触覚を接触させていることがあります。毛虫などが体を振るわせたり、餌をかじったりした時の振動をキャッチして獲物の居場所を知るようです。繭の中に入っている蛹でも強い顎で噛み破って餌とします。蛹はじっとしていれば安全なのですが、危険を感じて動いてしまうようです。



コガネムシを襲う様子



噛み破られた繭

働きバチが生まれると土を持ち出して巣穴を拡張し、巣板も増やしてどんどん大きくなっていきます。穴の入り口は小さくてわかりにくいのですが、ハチが出入りしますから存在がわかります。巣に近づくと攻撃されますが、巣から離れて索餌中の個体に対しては動かなければ大丈夫です。

### 2. マムシグサ

茎を包む葉鞘である偽茎の模様から名付けられました。水分の多い場所で見ることができます。ミズバショウに似た花の形は、外は苞で、中にあるソーセージ状の部分が花卉の無い花の集合体です。個体差が大きく、ほぼ全体が緑色のものから紫色が濃いものまで様々です。

サトイモ科で、地下にはコンニャクと同じような芋があります。4月には、蓄えた栄養を使って2枚の葉を伸ばしてきます。この葉は、年々大きくなり小葉が増えていきます。小葉が多くなると花が付きます。花は、雄花ばかりの株と雌花ばかりの株があり、果実が実った雌株は秋に目立ちます。赤いトウモロコシのような穂は美味しそうですが手を出してはいけません。



葉鞘



サトイモ科は有毒で危険です。品種改良で毒性を少なくしたサトイモでも皮むきで手が痒くなる人があると思います。コンニャクもそうです。この正体はシュウ酸カルシウムで、針状の結晶が刺さり痒くなるのです。マムシグサはこのシュウ酸を大量に持って、食べられることを防いでいるのです。きれいだからといって汁を皮膚につけないようにしましょう。

(倉吉博物館専門委員 國本洸紀 2022)